

平成29年度 英語科新任授業研修会 活動報告書

1. 目 標 「新しい時代の英語教育」
2. 日 時 平成29年11月10日（金）13：00～15：30
3. 会 場 浜松開誠館高等学校 （浜松市中区松城町207-2）
4. 参加者 教員経験5年以内の英語科教員および専門委員 名
5. 日 程 開 会 式 13：05～13：15
 - ①挨拶 浜松開誠館高等学校 中西 孝徳校長
英語科専門部会部会長 谷野 純夫 （常葉大学附属常葉中学・高等学校長）
 - ② 授業者・助言講師紹介

- 授業見学 13：25～14：15
浜松開誠館高等学校 服部 貴哉 教諭
スーパー文理コース1年「コミュニケーション英語Ⅰ」
MAINSTREAM English CommunicationⅠ（増進堂）
- 合 評 会 14：25～15：15
指導講評 静岡県総合教育センター総合支援部
高等学校支援課 野村 賢一課長
- 閉 会 式 15：15～15：30

6. 内 容

<授業>

始業2分前にチャイム、授業の前に2分間の黙想

5～6人のグループ学習形態

プロジェクター（スライド）を使って指示や時間を提示

【段階1】 導入

①本時の流れを説明

②What is the most important thing in your life?

人生において最も大切なものとその理由を英語でノートに書く。

③グループ内で発表する。2～3名指名し、教師からの②の質問に対して英語で答える。

【段階2】 新出単語と part1 の本文で用いられている単語の同義語や説明文のマッチング

①ワークシートに各自で取り組む。

②グループ内で答え合わせ。

【段階3】 part1 で題材となるコルカタに関する動画を見る

①プロジェクターから投影される字幕なしの映像を全員で見る。

- ②教師から生徒各自の iPad に配信された同じ動画を、英語字幕機能をオンにしてくり返し見る。日本とコルカタの違いを各グループに配布されたワークシートに書き込む。
- ③各グループでまとめられたワークシートを教師の iPad で撮影し、プロジェクターと各自の iPad へ配信して全員で各グループのワークシートを確認する。
- ④コルカタに関係の深い Mother Teresa についての情報を与える。

【段階4】 リスニング

- ①ワークシートの英文を見ながら音声を聴き、ワークシートの英文の間違いを見つけて正しく直す。
- ②スライドを使って全員で答え合わせをする。
- ③正しい英文を見てもう一度音声を聴く。

<合評会>

①浜松開誠館高等学校英語科主任より

- ・開誠館高校では、ICT化、グローバル化を推進しており、外部コンサルタントの導入や県外への研修参加を積極的に行っている。
- ・全館に Wi-Fi 設備が整っている。
- ・高校1年生全員に iPad を持たせている。
- ・iPad では「ロイロノート」を活用し生徒と教員とのやりとりを行っている。

②授業者 服部先生より

- ・4技能を使わせることを意識した授業展開を考えた。日頃から英語科としてグローバル教育を押し進めており、ICTの活用を念頭においている。スライドの作成にも慣れ、作成時間も徐々に短くなってきている。
- ・動画の字幕機能を活用することでワークシートに取り組む作業の効率化を図った。
- ・服部先生ご自身は中等部の野球部の顧問をされている。部活動の指導には自信があるので、公立高校にはできないことをする環境が私立にはあるというアドバンテージを持って、部活指導のノウハウを授業に生かさなければいけないと常日頃考えている。
- ・私立、公立の垣根を越えて英語教育を盛り上げていきたい。
- ・ホワイトボードのない教室では、黒板に直接スライドの画面を写している。その際はスライドの背景を黒にして、文字を白など明るい色にすると黒板に投影でき、直接書き込めて便利である。
- ・発音を苦手にする生徒が多いので、省略形などを意識させたリスニングシートを活用している。
- ・語彙力が不足している現状を打開したいという考えから、類義語や対義語を使って語彙力の強化を図っている。

③助言者 静岡県総合教育センター総合支援部高等学校支援課 野村 賢一課長より

- ・ICTの原則的な考え方は次の3点である。
 1. ICTを使うことが目的というところから、効果的な手段として活用できるようにする。

2. 生徒の興味、関心を高めるためのものから、教師側が生徒にわかりやすく伝えるための補助器具として活用できるようにする。
3. 生徒の学習を支援するためのものとして活用する。
→ICTを使わなければならない日は必ずくるので、まずは英語科全体で使ってみようという気持ちで取り組み、徐々に工夫して使うことができるようにならなければいけない。

・リスニング教材について

1. 教員と生徒のオーラルインタラクション自体がリスニング指導になる。
2. 生徒と生徒の1対1の会話を他の生徒に聞かせることがリスニング指導につながる。

・語彙指導のあり方について

1. 丸暗記をして試験でその知識を発揮することは家庭学習で1人でもできる。
2. 知らない単語の意味を推測して英文を読めるようにすることは授業で鍛える。

・本日の授業について

1. 導入は欲張って多くのことを取り入れすぎず、part1につながるものやゴールアクティビティにつながるものなどからどれかを選び、効率化を図って取り組むとよい。
2. 導入を活発にすると本文に入りやすくなる。
例) 生徒に投げかけた質問に対して教師の意見を足し、ランキングにしてみる。
例) 教師の質問に頑張って英語で答えた生徒に対し、その答えに対してさらにもう1つ質問をしてあげると会話が広がる。
3. 授業を通してどのような生徒を育てたいのか、どのような力をつけさせたいのか、など、本文(授業)とゴールアクティビティの関係をきちんとつなげた授業展開を考えるとよい。
例) 単語を先に教えてしまうと未知語に対処できないので、その英文を読む中で3回しか辞書を引いてはいけないというルール設定をしてみる。
例) ノーヒントで初見文に挑戦させる。
4. 動画を取り入れる時は、目的に合ったものを選びなければいけない。目的に合うものがなければ無理をせず動画は取り入れない方がよい。
5. part1はpart2に興味を持たせるためのものにしなければいけない。
例) 本文を隅から隅まで読ませるQ&Aを作る必要はない。
例) 本文を通して生徒の心に何を残したいのかをまず考える必要がある。
6. 大切なことは、英語を教える中で生徒の人間性を育てることである。

(記録：静岡県富士見中学・高等学校 勝亦 愛)